

氏名	永 広 哲
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 3 1 8 号
学位授与の日付	昭和43年12月31日)
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	キリン誘導体クロロキンの消化器系機能に及ぼす影響に関する研究 第1編 家兔胃運動に及ぼす作用に関する研究 第2編 家兔腸管運動に及ぼす作用に関する研究 第3編 家兔消化管分泌に及ぼす作用に関する研究
論文審査委員	教授 平 木 潔 教授 小 坂 淳 夫 教授 大 藤 真

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

磷酸クロロキンの胃運動に対する作用を、胃バルーン法によって観察した結果、本剤の静注は胃運動抑制作用ならびに緊張低下作用を呈することが判明した。また、ATPとの併用作用を検討し、ATPは磷酸クロロキンに対し拮抗的に作用することが明らかとなった。

つぎに、マグヌス法によって摘出回腸管の自動運動に対する作用を検討し、本剤は腸管の自動運動を抑制し、緊張を低下せしめることを認めた。更に、本剤はヒスタミン、アセチルコリンなどによる腸管収縮に対して拮抗的に作用することから、本剤の抗ヒスタミン作用、抗アセチルコリン作用を証明した。また、BaCl₂の腸管収縮に対しても拮抗することから、本剤の作用機序は、主として筋自体への直接作用であると考えた。

一方、胃瘻法に準じて、胃液分泌に対する作用を調べたところ、本剤を静注すると胃液分泌促進的に作用し、殊に酸分泌促進作用が顕著であった。尚、本剤を静注すると、胃液中へも排泄されることを認めた。

つぎに、総胆管瘻を造設し、胆汁分泌に対する作用を調べたが、本剤を静注しても顕著な作用を認めなかった。しかるに、本剤は静注後、急速にかつ高濃度に胆汁中に排泄されることを認めた。

以上、クロロキンは胃腸管運動に対しては抑制的に作用するが、胃液分泌殊に酸分泌に対して刺激的に作用することは、本剤が平滑筋に直接作用するのと同様に、酸分泌細胞に対しても直接分泌

刺激的に作用するものと考えている。

(3編共に昭和43年6月発行岡山医学会雑誌第80巻5, 6合併号に掲載)

論文審査の結果の要旨

本研究は、クロロキンの臨床的応用に際してみられる副作用に関して消化管機能を中心に実験的研究を行ったものであるが、従来未解決の点の多い本剤の作用機序について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。